

	コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	97-3	都市間交流推進事業（関連都市との交流）	会計	01	一般会計
			款	02	総務費
			項	01	総務管理費
基本 施策	54	地域資源を活かして、他地域と交流する	目	07	文化振興費
			細目	130	都市間交流推進事業
行革大綱の重点事項番号			細々目	51	都市間交流推進事業
担当部署	コード	11300	担当者	西村 澄子	22 - 9621
	名 称	企画総務部企画課	氏 名	連緒先 (内線)	2116

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	芭蕉ゆかりの都市 東大寺の营造や再建などで歴史的に関係の深い都市		※対象件数
成果(どうする)	伊賀市の文化を発信し、相互の情報交換ができる。		
根拠法令・要綱等	奥の細道サミット規約、東大寺建立にかかわった市町村実行委員会会則		
開始年度	平成	年度	関連事業
終了年度	平成	年度	
H22 事業内 容	「奥の細道松島サミット」に参加した。 東大寺サミットは輪番制で伊賀市が会計監査担当だったため、監査を行った。「東大寺サミット2010 in 東京」には不参加。		
社会情勢 の変化等	東大寺サミットについては、隔年の開催となっている。次回は、24年度の予定。奥の細道サミットは、23年度は岐阜県関ケ原町で開催予定。		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト (Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
			目標 実績	目標 実績	目標 実績	目標 実績
奥の細道サミット参加		回	1 1	1 1	1 1	1 1
			0 0	1 0	0 0	1 1

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
				目標 実績	目標 実績	目標 実績	目標 実績
奥の細道サミット参加		サミットに参加することにより、芭蕉生誕の地伊賀市を広くPRすることができる。	回	1 1	1 1	1 1	1 1
				0 0	0 0	0 0	0 0

投入 コスト	H21 決算		H22 決算		H23 当初予算		H24 当初要求	
	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)	
	直接事業費計 (A)		76		331		63	
	A の 財 源 内 訳	国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他	0		0		0	
事業投入人件費 (B)	76		331		63		289	
	0.1 人		720		720		720	
	フルコスト(A)+(B)		796		1,051		783	

事務事業の評価 (Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必 要 性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	松尾芭蕉ゆかりの都市や、東大寺の营造や再建など、歴史的に関係の深い都市が参加するサミットに参加することにより、文化を発信する。
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第3者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは地域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
有 効 性	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	サミットに参加することにより、全国に伊賀市をPRできる。
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合は、市民生活への影響が大きい事業	
達 成 度	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	
効 率 性	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
効 率 性	当初設定した計画を	
	予算の繰越の有無	
効 率 性	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
	【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
効 率 性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
効 率 性	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	
効 率 性	全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	【状況】
昨年度の 取組状況	【詳細】

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	藤山 善之
事業の方向性	【方向性】
	現状維持
	【理由】 伊賀市の文化を広く発信し、サミットに参加する地域の相互の情報交換ができることから、事務事業を継続する。
現時点における課題、その他	今後も事業を継続していかなければならない。
課題、その他に対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	23年度よりサミットへの参加は1名にする。